

オフィスにおける男女共用トイレの利用意向とあり方 オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究 その5

正会員 ○日野 晶子* 岩本 健良***
同 高橋 未樹子** 大出 摩紀**

オフィス トイレ トランスジェンダー
LGBT 意識調査 男女共用トイレ

1. 本研究の目的

本研究は、性自認に関わらず誰もが利用しやすいオフィストイレの環境整備をめざしている。前報では、トランスジェンダー（以下トランス）に一定のニーズがある「性別不問のトイレ」として、「多機能トイレ」を取り上げた。シスジェンダー（以下シス）も含めた、オフィスにおける「多機能トイレ」の利用実態からそのあり方を考察し、多機能トイレではない「性別に関係なく、落ち着いて利用できる独立した個室トイレ」という潜在的ニーズを明らかにした。しかし、「性別不問の個室トイレ」、言い換えると「男女共用の個室トイレ」は、現在のオフィスでは多機能トイレ以上に、一般的とは到底言い難い。そこで本報では、オフィスに男女共用個室トイレがあった場合の利用意向や利用条件の調査結果から、その有効性及びあるべき姿について考察する。

2. 調査方法

その3にて既報の通り、シス824人（20～59歳の性年代で均等割り）、トランス299人（18～59歳、FTM：Female to Male 86人、FTX：Female to X-gender 73人、MTX：Male to X-gender 54人、MTF：Male to Female 86人）に対し、2017年11月にインターネット調査を行った。

3. 調査結果

3-1. オフィスにおける男女共用トイレの利用意向

主に利用しているオフィスに、男女別トイレ以外に「男女共用個室トイレ」があった場合の利用意向を尋ねた結果を図1に示す。設問には、当該トイレは多機能トイレとは異なり、小規模飲食店やコンビニにあるような「男女共用の独立した個室トイレ」との説明を付した。「日常的に利用すると思う（以下“と思う”は略）」と回答したシスは8.0%、トランスはシスよりも20ポイント以上高い31.4%であった。「条件や状況によって」ではシス49.3%、トランス46.5%と大きな差はみられなかった。また、ジェンダー別の結果を図2に示す。シスでは男女差が大きく、「日常的に」と「条件や状況によって」を合わせて「利用する」と回答した女性は47.0%で、男性の67.5%より20ポイント以上低かった。トランスもジェンダーによりばらつきがみられ、MTFでは22.1%が「利

用しない」と回答したが、全体的に利用意向は高い。

さらにトランスについては、その3にて報告した“トイレ利用の希望と実態の一致度”別の結果を図3に示す。「日常的に利用する」と回答した割合は、希望と実態がどのトイレで一致しているかにより顕著な差がみられた。一致しているトイレが「出生時の戸籍性別トイレ」では9.7%と最も低く、「自認の性別トイレ」では18.8%、「多機能・男女共用トイレ」では43.3%であった。不一致の場合は53.4%とさらに高く、「条件や状況によって」と合わせると、利用意向は9割を超えた。トイレ利用の希望と実態が、多機能・男女共用などの「性別不問のトイレ」で一致している者の他、不一致、つまり、オフィスにて“利用したいトイレが利用できていない者”のニーズが浮き彫りとなった。

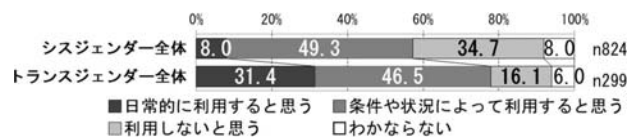


図1. オフィスの男女共用トイレ：利用意向（シス／トランス）

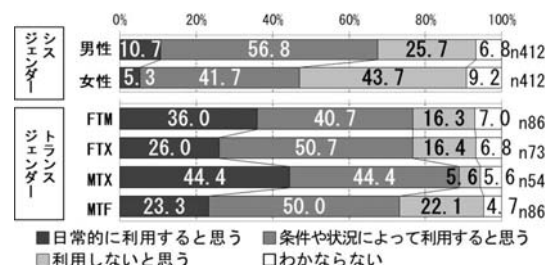


図2. オフィスの男女共用トイレ：利用意向（ジェンダー別）

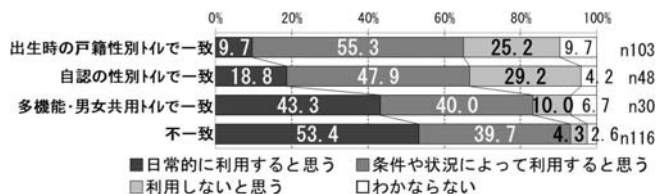


図3. オフィスの男女共用トイレ：利用意向（トランストイレの希望と実態一致度別）

3-2. オフィスの男女共用トイレを日常的に利用する理由

前項にてオフィスの「男女共用個室トイレ」を「日常的に利用する」と回答した者に対し、その理由を尋ねた結果を図4に示す。トランスでは「性別に関係なく利用できる」が74.5%で最も多く、「落ち着いて利用できそう」が50.0%で続いた。「男女に分かれたトイレ」に落ち着か

なさを感じている者のニーズが窺える。一方シスでは「性別に関係なく～」は 36.4%で、トランスより約 40 ポイント低く、「落ち着いて～」は 37.9%であった。

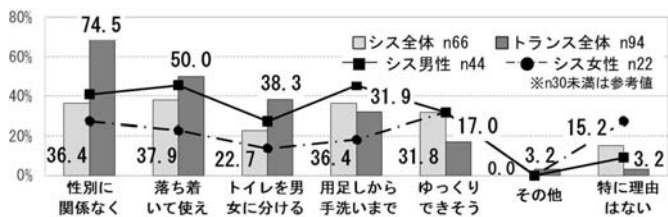


図 4. オフィスの男女共用トイレ: 日常的に利用する理由

3-3. オフィスの男女共用トイレを利用する条件・状況

同様に、「条件や状況によって利用する」と回答した者に対し、その条件や状況を尋ねた結果の上位 10 位まで (20 項目中) を図 5 に示す。シス・トランス共に、「清潔」「待たない」「音やニオイ」といった快適なトイレの基本条件を示す項目が上位を占めた。また、シス・トランス共に「我慢できないとき」、シスでは「体調が悪いとき」といった“やむを得ない状況”が 6 位までに挙がった。

これらの基本条件及びやむを得ない状況を除いたシス・トランス共通の条件は、順位やその割合は異なるものの「広めの個室」「温水洗浄便座等の付属設備の充実」といった付加価値項目及び「プライバシー/セキュリティの確保」といった安心・安全に関わる項目であった。また、シス特有の条件は「着替えができる」であるのに対し、トランスでは「出入りが他人から分かり難い」「みんなが利用する」であり、周囲の目を気にすると同時に“トランス用トイレ”となることを懸念していると推察される。

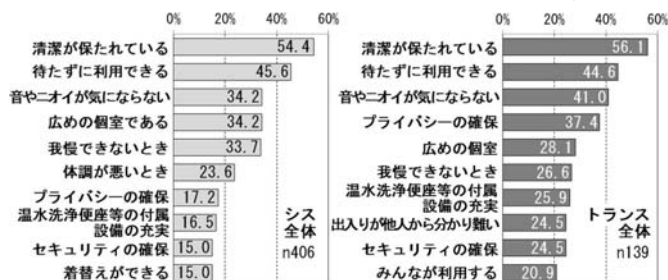


図 5. オフィスの男女共用トイレ: 利用する条件・状況 (上位 10 位)

3-4. オフィスの男女共用トイレを利用しない理由

さらに、「利用しない」と回答した者に対し、その理由を尋ねた結果の上位 10 位まで (17 項目中) を図 6 に示す。シス・トランス共に、「異性と同じトイレを利用することに対する抵抗感」を示す項目が上位を占めた。これは特にシス女性に顕著で、「知らない異性」59.4%、「異性の上司や同僚・部下」45.0%に対し、男性はそれぞれ 7.5%、8.5%とシスの男女間で著しい差がみられた。トランスでは 22.9%が「LGBT など性的マイノリティではないかと思

われそう」と回答しており、シスの 2.4%と比べても、周囲の目を気にしていることがわかる。なお、その他の理由の自由回答では「(自認する性別である) 女性用トイレを利用するので必要ない」という MTF の回答が目立った。

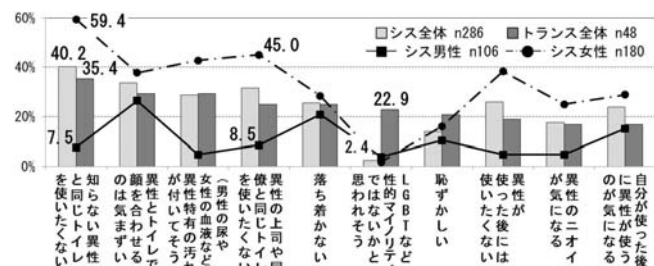


図 6. オフィスの男女共用トイレ: 利用しない理由 (上位 10 位)

4. まとめ: オフィスの「男女共用個室トイレ」について

- 1) シス・トランス共に、条件や状況による利用も含め一定の利用意向がある。男女差が大きいシスに対し、トランスはジェンダーによる差もあるが、利用意向は全体的に高い。中でも日常的な利用意向があるトランスは、男女別トイレでは落ち着かないと感じている可能性がある。
- 2) トランスでは、オフィスでのトイレ利用の希望と実態が不一致の者の利用意向が特に高い。オフィスで利用したいトイレが利用できない状況を改善する手段のひとつとして、男女共用個室トイレを設置することは有効といえる。しかし、利用したいトイレを利用できる環境を整えることが、同時に求められる。
- 3) トランスは周囲の目を気にする傾向が強く、「トランス用トイレ」となることへの懸念もみられる。そこで、シスも同様に利用することが求められる。シス・トランス共に利用しやすい男女共用トイレとするには、清潔、音やニオイといった基本要素に加え、「広めである」「付属設備の充実」といった付加価値要素、プライバシーやセキュリティといった安心・安全への配慮が重要である。
- 5) 利用しない者の主な理由は、シス・トランス共に異性との利用に対する抵抗感であり、特にシス女性に顕著である。トランスでは「(自認する性別である) 女性トイレの利用」を理由とする MTF の声が目立った。従って、男女別、男女共用が選択できることが必要である。

次報では、オフィスで利用しやすい「男女共用個室トイレ」の配置について、自由回答をもとに分析・考察した結果を報告する。

なお本報告は、「オフィストイレのオールジェンダー利用に関する研究会」(金沢大学、コマニー (株)、(株) LIXIL)で行った調査をとりまとめたものである。

*株式会社 LIXIL

**コマニー株式会社

***金沢大学 人文学類 准教授 文修

*LIXIL Corporation

**COMANY INC.

*** Assoc.Prof, School of Humanities, Kanazawa University, M.A